

折々の記 No180 : 軽すぎる政治家!

(H23/9/14 記)

歴史的な政権交代が行われた2009年9月来2年が経過したが、この政権交代は日本に何を齎したのか?安倍、福田、麻生と自民党政権で一年ごとに首相が交代したが、その流れは民主党政権になっても皮肉にも継続した。自らの稚拙な論理で普天間飛行場移設問題を頓挫させた鳩山首相然り、大震災や原発対応等々でリーダーたるの資質を問われた菅首相然りである。本日、民主党政権三代目の野田首相は所信表明を行ったが、日本の国益を考えるならば、野田首相には強力なリーダーシップを発揮して、直面する幾多の国難に果敢に対処して頂きたいものだ。然しながら、自民党や公明党は、それが野党の宿痾であるのか、揚げ足取りに血眼になっている。来るべき総選挙では自民党等の勝利が予想されるからか野田新首相に協力しようという気は更々ないようだ。日本政治の矮小さの表れだ。国民の思いとは違うところで政治が動いているとしか思えない。

それにしても、政治家の言葉が軽すぎる?国民の日本語が乱れているのは承知だが、少なくとも選良と呼ばれるべき政治家は言葉の持つ重みを理解して、正しく使用して頂きたいものだ。或いは大臣になったことで舞い上がっているのか、民主党政権で3人の大臣が失言等により辞任した。

第一は、柳田法務大臣は2011年11月14日、広島市で行った国政報告会の場で法務大臣はいいですよ、“個別事案はお答えを差し控える”“法と証拠に基づいて適切にやっている”法務大臣は、この2つ覚えておけばいい」と発言し、国会軽視と非難され辞任に追い込まれた。柳田大臣は正直な方だというのが偽らざる感想だ。多分、柳田大臣が述べた通りなのだろう。然し、それを公の場で言うか?それが理解できない。



第二は、本年7月3日被災地の岩手県・宮城県を視察した松本復興担当大臣の発言だ。県知事に対し大暴言を吐く。

- ①「知事が先にいるのが(出迎えるのが)筋だよな」。
- ②「(水産特区)は県でコンセンサス得ろよ。そうしないと我々は何もしないぞ。ちゃんとやれ」
- ③「今あとから入ってきたけど、お客さんが来る時は自分が入ってからお客を呼べ。いいか?長幼の序が分かっている自衛隊ならやるぞ。わかった?しっかりやれよ。」
- ④「今の最後の言葉はオフレコです。いいですか。絶対書いたら社は終わりだからな!」が極め付けだ。



以上の発言がマスコミに流れ、復興大臣何者ぞとの非難が轟々と湧き上がった。大臣はそんなに偉いのか?そんなに威張ることないではないか?実るほど垂れる稲穂かなを御存じないと見える。ラグビーボールを蹴ったり、一体何様の積りなのだろう。

第三が、野田新内閣の経済産業大臣に就任した鉢呂吉雄氏の就任9日目での辞任である。



①福島第1原発を視察後、議員宿舎に帰宅した際、報道陣の一人に防災服の袖をつけるしぐさをし「放射能をつけてやろうか」と発言したこと、②翌日の記者会見で原発周辺の市街地を「死の町」と表現したこと、の二つが不適切であるとされ、辞任した。

これなども、実に見戯にも似た行為ではあるが、大臣がそんなことをするか？また、「死の街」発言も思ったままを軽いノリで言ってしまったのだろう。この軽さが大臣としては致命的だ。

この三人の大臣に共通するのは、大臣らしからぬ軽さである。野党慣れして、一国の大臣の重みや大臣発言の影響力の大きさに思い至らぬ幼稚さである。大臣になって舞い上がっているとしか思えない。訓練もされていないのだろう。民主党政権の人材育成の未熟さ、人材不足も懸念される。そもそも政権交代とは何だったのかが問われねばならない。

何も政治家に限らず、現代日本人は、日本語を大事にしていない。言葉によって人は感動し、行動するものだ。リーダーは優れて言葉のエキスパートでなければならない。社会でも学校でもそして家庭でも言葉を教えなくなっているのかも知れぬ。